

最終報

# 静岡県の 新型コロナウイルス性肺炎 中等症Ⅱ以上入院患者の状況

(第11報; 2024年10月28日～2025年3月30日、109例)



静岡県健康福祉部 感染症対策課(感染症管理センター)

## 静岡県 新型コロナウイルス性肺炎 中等症Ⅱ以上入院患者の調査

- 【背景】 2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が五類感染症となり、**新型コロナウイルス感染中の死亡者の迅速な確認が困難**になり、その年代や基礎疾患、主要死因等も把握ができなくなった。  
一方で、新型コロナウイルスは**流行している変異株が頻繁に変わる**ので、**その重症化の変化もモニタリング**する必要がある。
- 【目的】 そこで、新型コロナウイルス性肺炎で中等症Ⅱ以上となった入院患者さんや新型コロナウイルスによって脳炎脳症や心筋炎になった入院患者さんの疫学情報を、個人が特定できない範囲で県内病院から提供していただき、**コロナが重症化する年代、ワクチン接種状況、日常生活自立状況、基礎疾患等を集計・分析し、医療機関への情報提供や県民への注意喚起・高齢者のコロナワクチン接種勧奨**等に役立てる。
- 【方法】 協力していただける県内病院が、**新型コロナウイルス性肺炎中等症Ⅱ以上の患者さんの年代・性別、接種回数等、日常生活自立度（パフォーマンス・ステータス）、基礎疾患等**をGoogle・フォームに入力し、県が定期的（夏と冬の流行期の前半経過時点と終了時点）に集計・分析し、医療機関への情報提供及び県民への公表を行う。

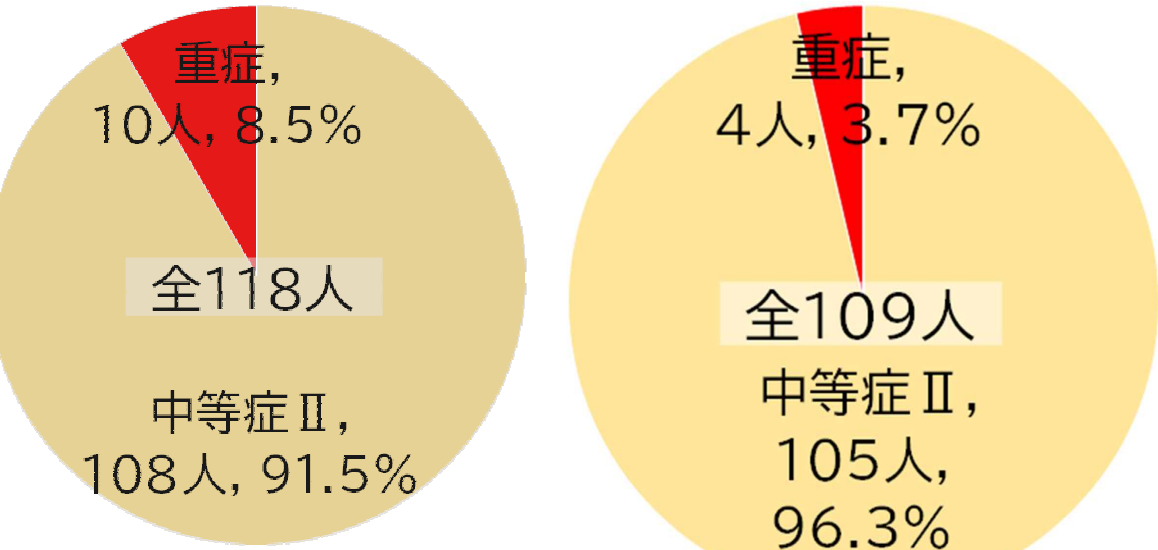
## 新型コロナウイルス感染症の肺炎の重症度分類（医療従事者が判断）

重症度	症状	パルスオキシメータの数值 (SpO2)
軽症	呼吸器症状なし または 咳のみで呼吸困難なし いずれの場合も肺炎所見を認めない	96%以上
中等症Ⅰ	肺炎所見あり 呼吸困難あり	93.1%~ 95.9%
中等症Ⅱ	肺炎所見あり 酸素投与必要	93%以下
重症	人工呼吸器が必要 ICUに入室	

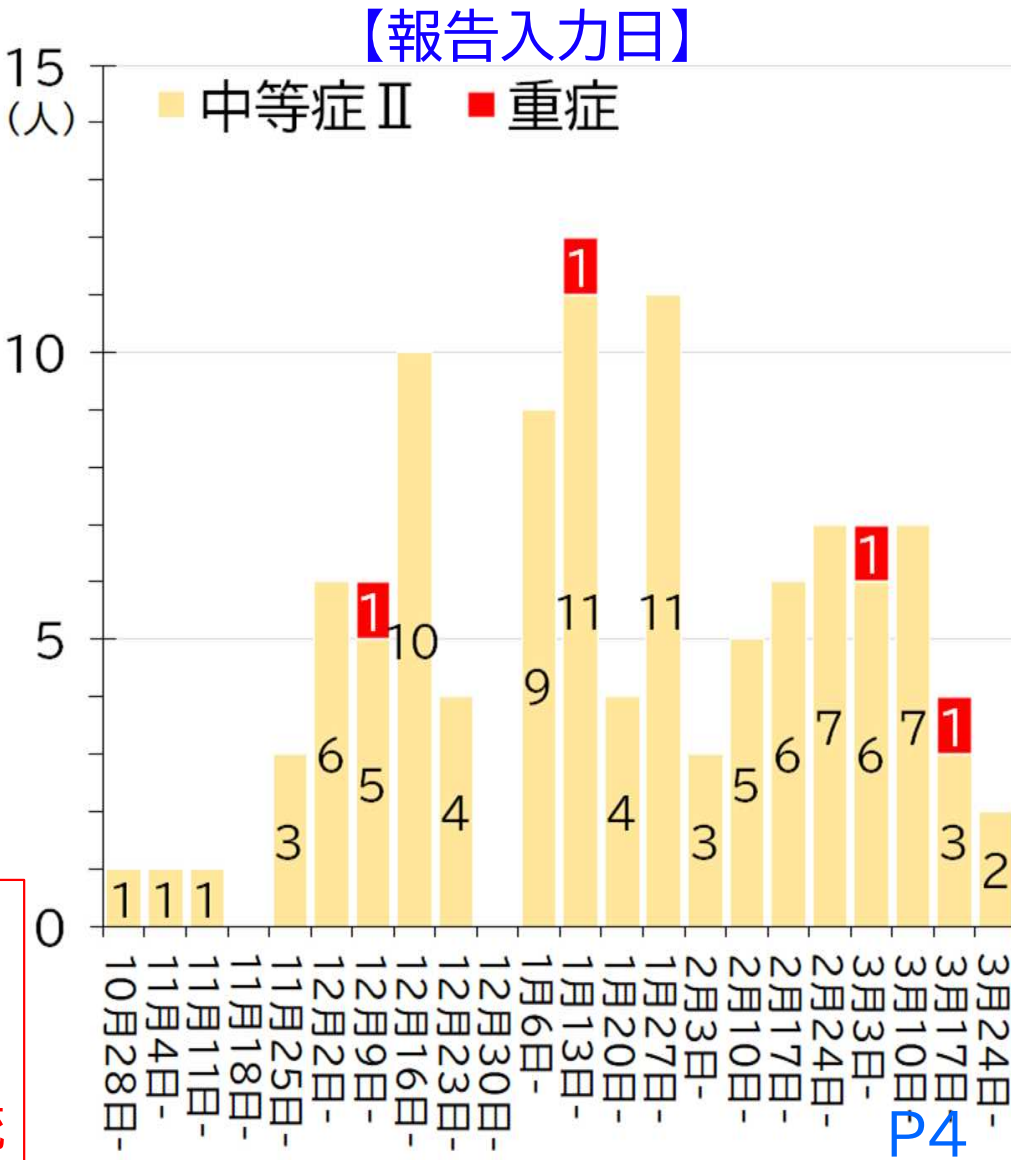
**調査対象**  
他は脳炎脳症、心筋炎

# 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 (2024.10/28~25.3/30) ① 中Ⅱ/重割合・週

**【中等症Ⅱと重症等の割合】**  
 2023.10/30~24.2/18 2024.10/28~25.3/30  
 【昨冬の第10波】 【今冬の第12波】



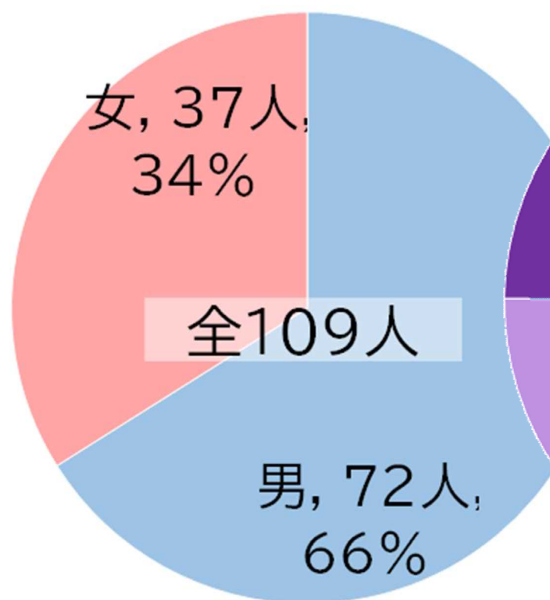
有意差なし  
 P=0.17 (Fisher's exact test による検定)



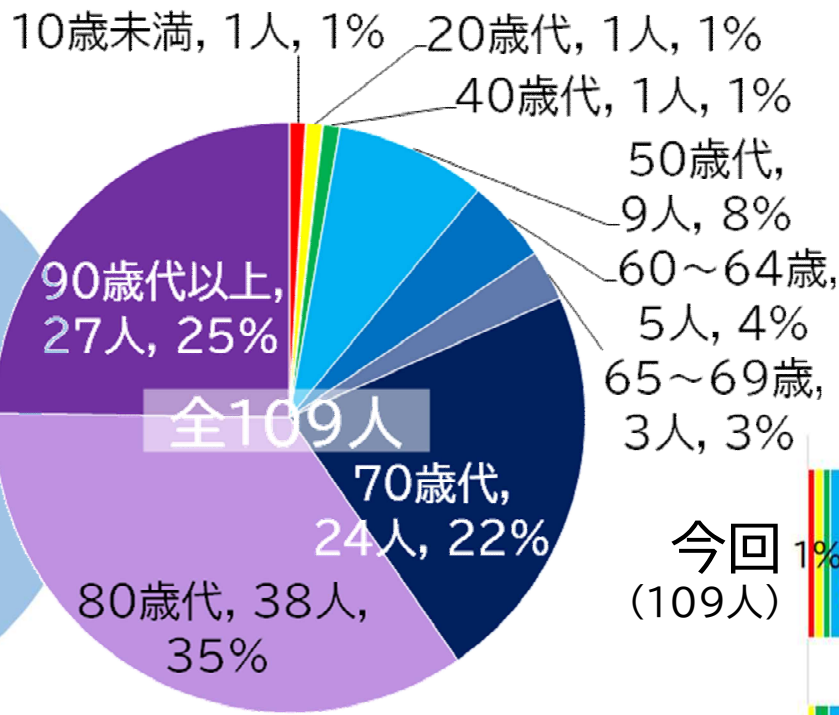
- 今回期間中に報告していただいたのは県内7病院
- 報告患者のうち、中等症Ⅱが97.1%と大半を占め、重症は約4%で、昨年冬の第10波より約5%少ない
- 今回、県内で流行の変異株はKP.3系統とXEC系統

# 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ② 性・年代

【性別】

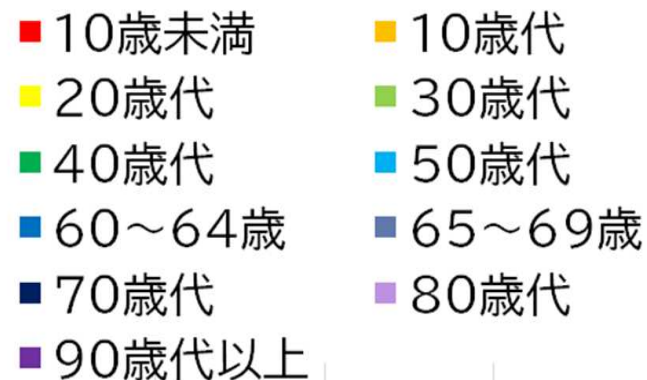


【年代分布】



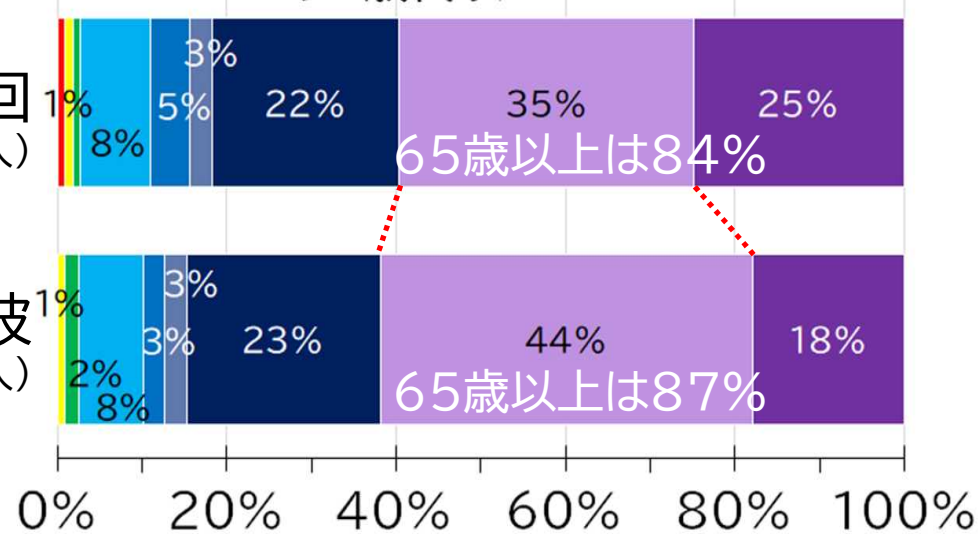
【年代分布の 昨冬第10波との比較】

※2023.10/30～24.2/18



今回  
(109人)

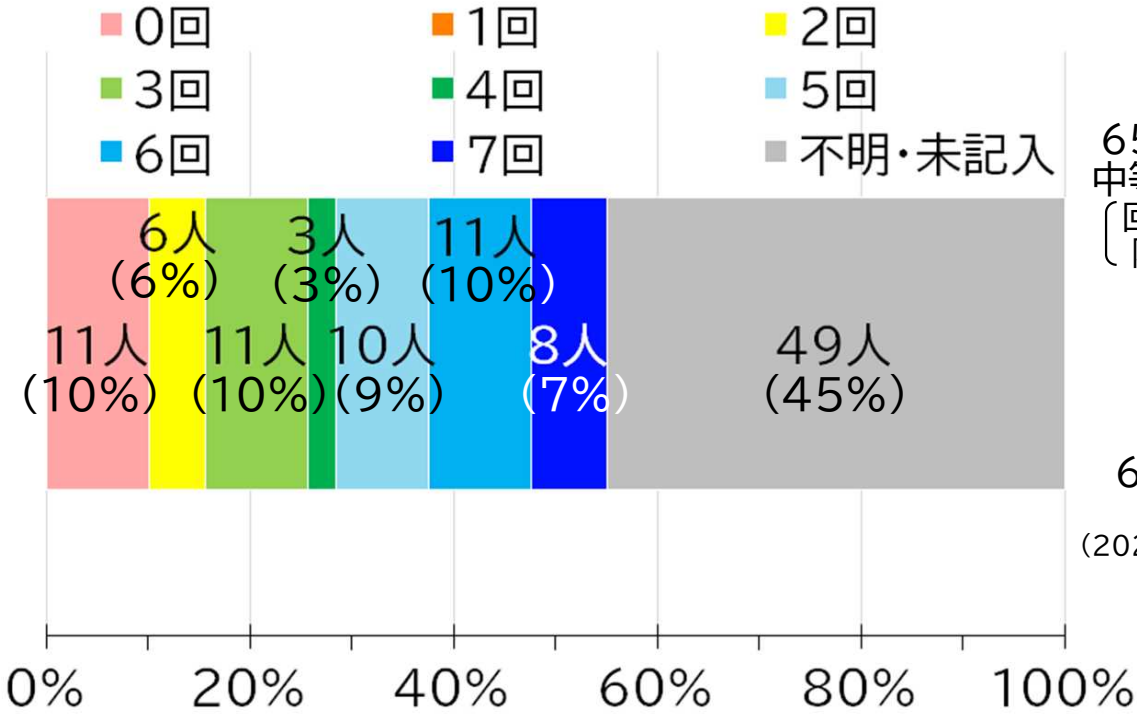
第10波  
(118人)



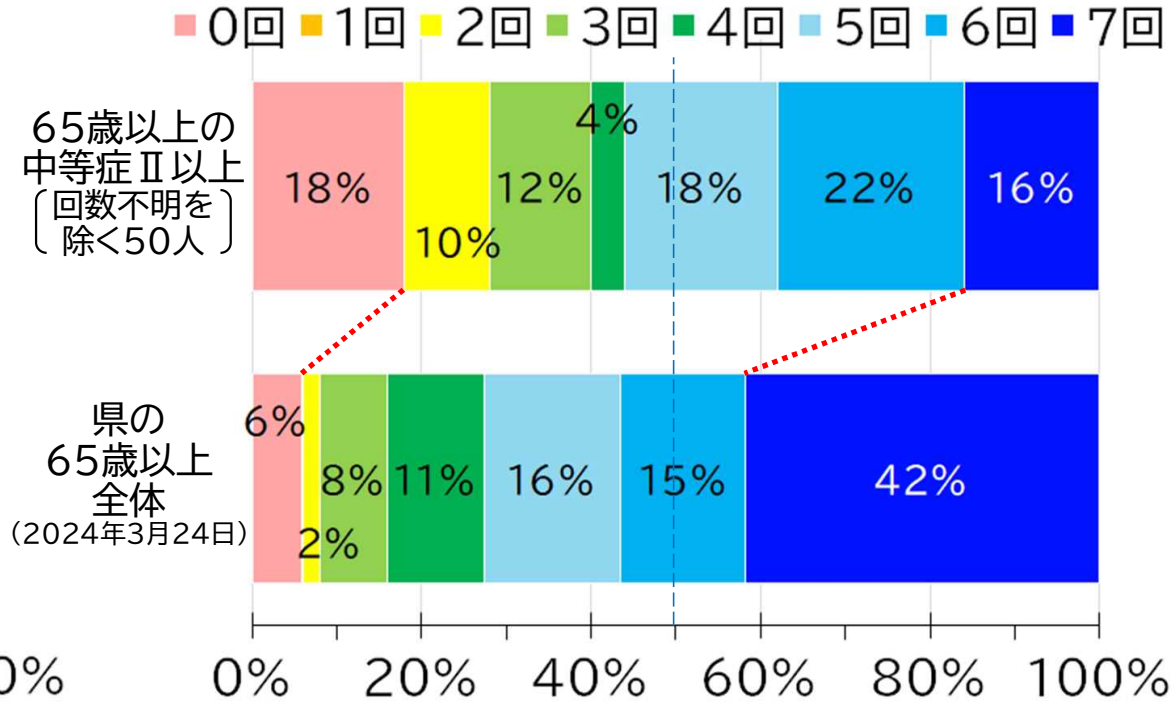
- 男性が66%を占めた(女性:男性≒1:2)
- 80歳代が最多で35%を占めた
- 65歳以上が92人で、84%を占めた
- 第10波と比べ80歳代が減少、90歳以上は増加

# 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ③ 接種回数

## 【全年代の接種回数】



## 【65歳以上での県民全体との比較】

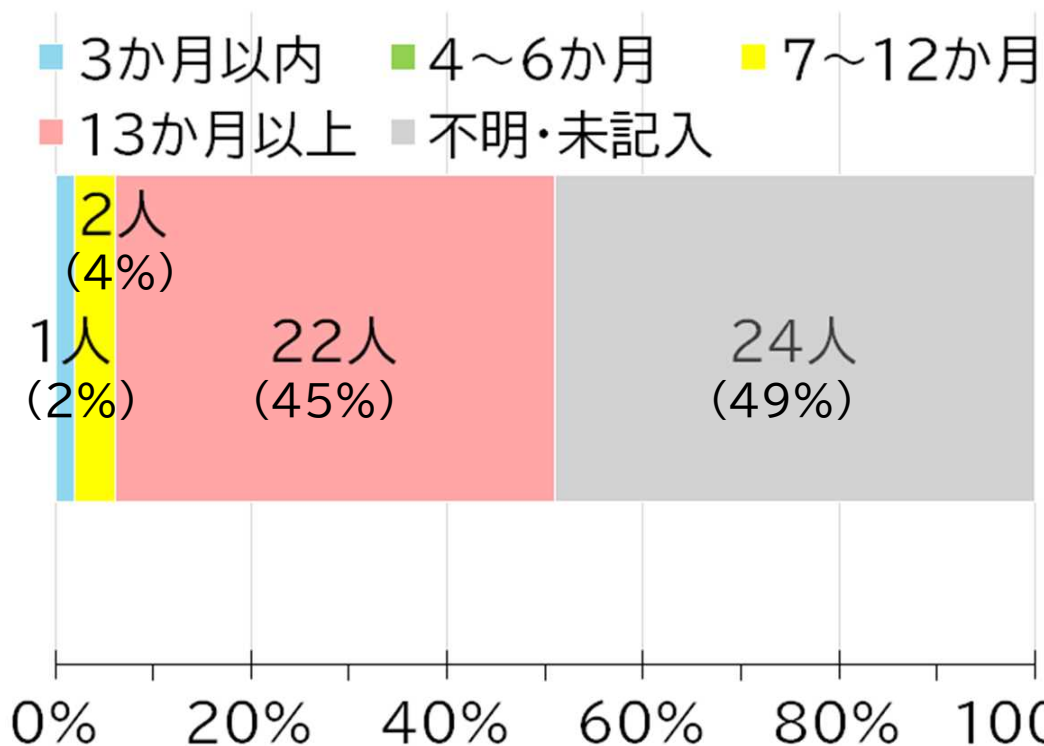


- 中等症Ⅱ以上の人全体で、接種回数の割合で多いのは、0回、3回と6回が各11人(10%)
- 65歳以上の中等症Ⅱ以上の人で接種回数判明者は、県の65歳以上全体と比べて、未接種者(0回接種)や2回接種者が多く(18%対6%、10%対2%)、7回接種者が少ない(16%対42%)
- 65歳以上の中等症Ⅱ以上の人接種回数中央値は5回、県の65歳以上全体は6回

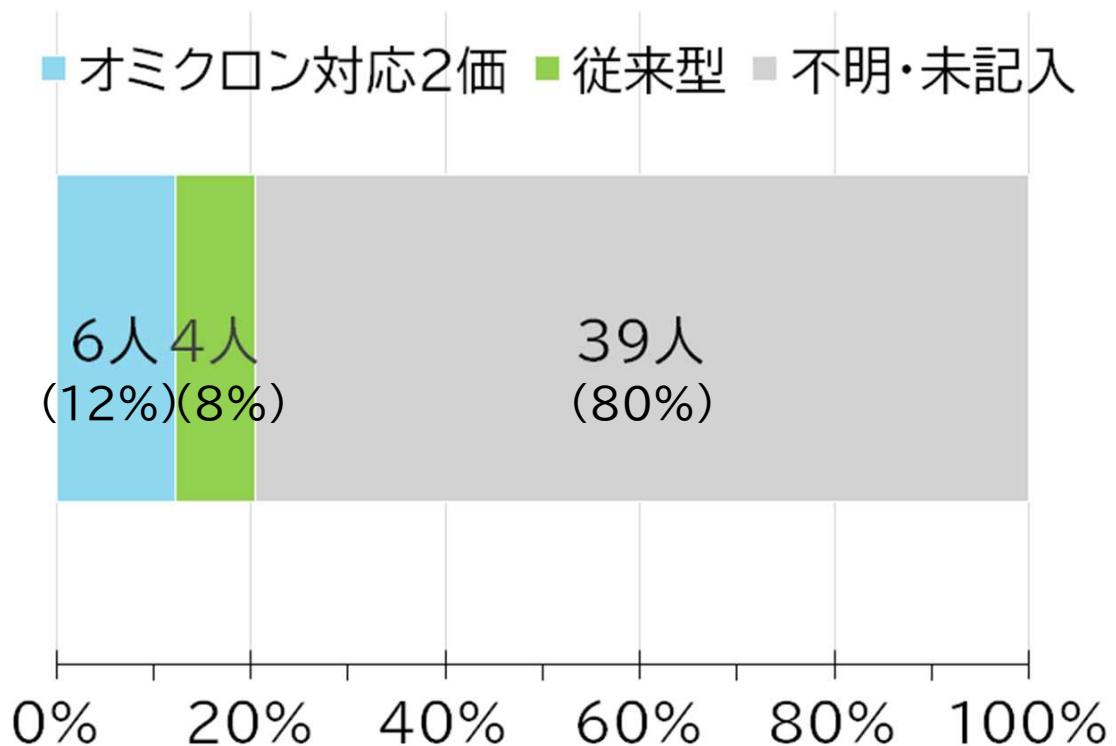


## 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ④ 最終接種時期・ワクチン種類

### 【最終接種からの期間】



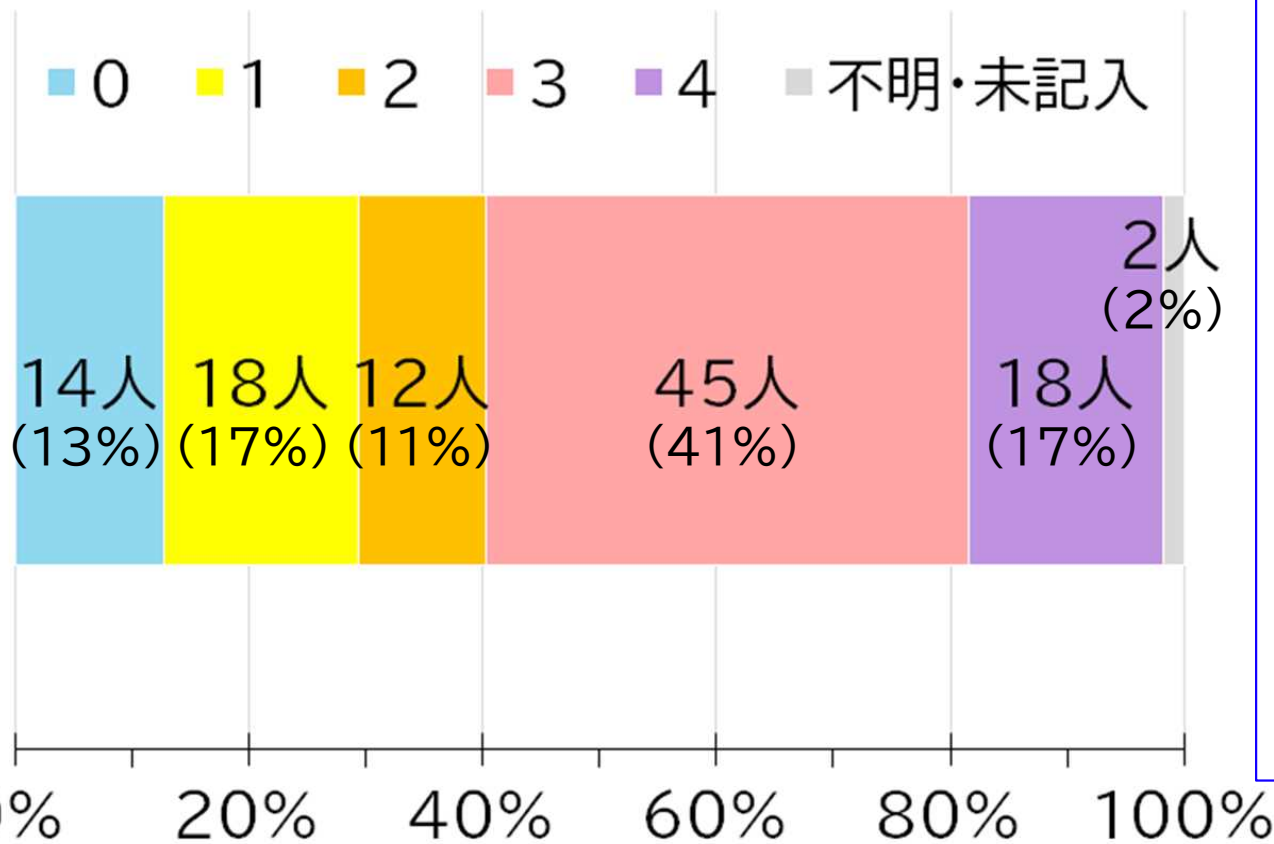
### 【最終接種ワクチンの種類】



- 不明が非常に多いが、最終接種からの期間が判明している人では、13か月以上が大部分を占めた(判明者の25人中22人、88%)

# 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑤ り患前の日常生活自立度の状況

## 【コロナり患前の日常生活自立度(パフォーマンス・ステータス;PS)】



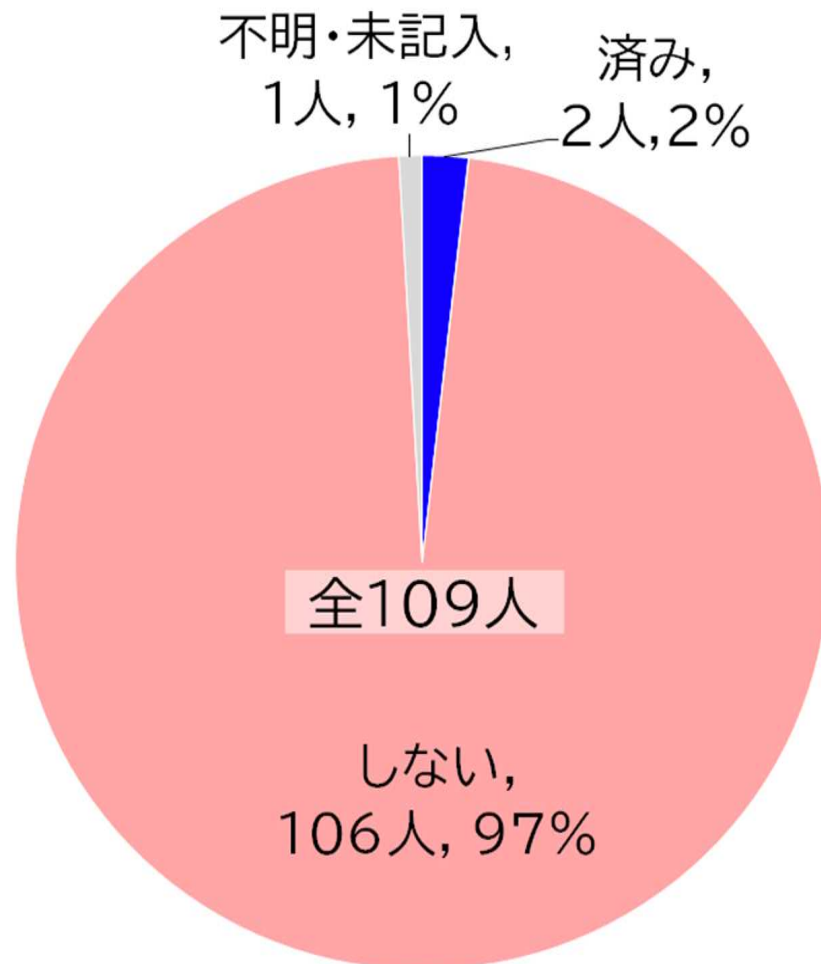
- 0;まったく問題なく活動でき、日常生活が制限なく行える。
- 1;肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる。例:軽い家事、事務作業
- 2;歩行可能で、自分の身のまわりのことはすべて可能だが、作業はできない。日中の50%以上はベッド外で過ごす。
- 3;限られた自分の身のまわりのことしかできない。日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす。
- 4;まったく動けない。自分の身のまわりのことはまったくできない。完全にベッドか椅子で過ごす。

• 何らかの日常生活の活動制限(PS 1以上)がある人が85%を占め、活動制限の強い(生活自立度が弱い)PS 3とPS 4の人が58%を占めた



## 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑥ ゲノム解析検体提出状況

### 【鼻咽頭拭い液等検体のゲノム解析用提出】

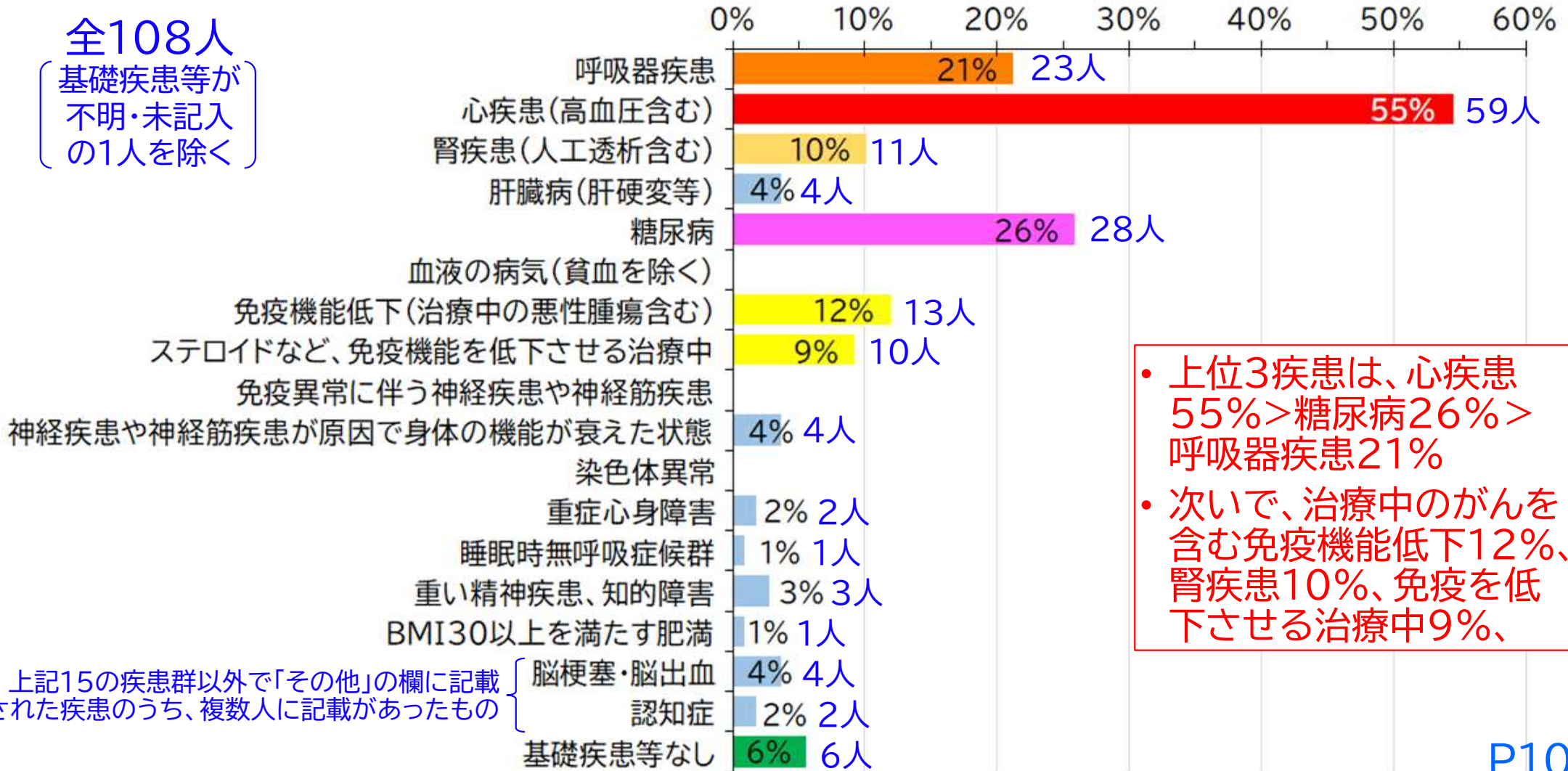


- ゲノム解析への検体提出は、2%のみであった

# 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑦ 基礎疾患等重症化リスクの状況

## 【ワクチン接種が勧奨される基礎疾患等、重症化リスクの状況(複数回答)】

全108人  
 (基礎疾患等が  
 不明・未記入  
 の1人を除く)



- 上位3疾患は、心疾患 55% > 糖尿病 26% > 呼吸器疾患 21%
- 次いで、治療中のがんを含む免疫機能低下12%、腎疾患10%、免疫を低下させる治療中9%、

# 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑧ 65歳未満で接種回数判明10人の状況

年代 \ 接種回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
10歳代以下			【略号等】男 女 PS0~4;パフォーマンス・ステータス0~4(数字大ほど自立低) 心;心疾患(高血圧含む)、呼;呼吸器疾患、糖;糖尿病、免;免疫機能低下状態、 神;神経・筋疾患、なし;基礎疾患等なし					
20歳代	PS4 神							
30歳代								
40歳代						PS0 呼		
50歳代	PS1 免		PS0 呼,心	PS4 呼 PS0 心	PS0 心,糖	PS3 呼		
60歳代前半				PS0 呼,心,免	PS3 呼,心,糖			

・65歳未満で接種回数が判明している10人のうち、8人(80%)が3回以下の接種回数だった  
 ・65歳未満の全17人で多い基礎疾患等は呼吸器疾患が7人(41%)、心疾患が6人(35%)、と糖尿病と免疫機能低下状態が各4人(24%)

## 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 第11報(最終報) 結果のまとめ ①

1. 新型コロナウイルス性肺炎が、流行主体の変異株の変遷によって、中等症Ⅱ以上の入院患者さんのプロフィール(年代、性比、ワクチン接種状況、基礎疾患等)に変化がないか、入院患者中の重症者の比率の上昇がないか、5類移行後も追跡することが必要という県新型コロナウイルス感染症専門家会議の助言のもと、県内病院の協力を得て、患者個人が特定されない疫学情報を随時収集し、定期的に集計・分析し、医療機関へ還元、県民へ公表してきた。
2. 今回の収集期間は2024年10月28日から2025年3月30日の22週間で、県内7病院から109人の中等症Ⅱ以上の入院患者さんの情報提供に協力いただいた。なお、この期間の県内の変異株は、おおむね前半がKP.3系統、後半がXEC系統が主流であった。
3. 109人中、中等症Ⅱ105人(96.3%)、重症4人(3.7%)であり、昨冬第10波(2023年10月30日～2024年2月18日)の報告患者中の重症者割合8.5%(10人中118人)と比べて約5ポイント減少したが、統計学上は有意な変化ではなかった。
4. 中等症Ⅱ以上の入院患者さんのうち、男性が72人で3分の2を占めた。年代は80歳代が最多の38人で35%であり、65歳以上が92人で84%を占め、1年前冬季の第10波の年代分布と比べて80歳代の割合が44%から35%へ9ポイント減少し90歳以上の割合が18%から25%へ7ポイント増加した。
5. ワクチン接種状況では、65歳以上の中等症Ⅱ以上の人は、県の65歳以上全体と比べて、未接種者や2回接種者が多く(18%対6%、10%対2%)、7回接種者が少なく(16%対42%)、接種回数中央値も少なかった(5回対6回)。

## 静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 第11報(最終報) 結果のまとめ ②

- ワクチン最終接種からコロナ入院までの期間が判明している25人中では、13か月以上が多かった(22人、88%)。
- コロナり患前の日常生活自立度は、何らかの活動制限のある人(パフォーマンス・ステータス(PS) 1以上)が、85%を占め、活動制限の強い(生活自立度が弱い)PS 3とPS 4の人が58%を占めていた。
- 重症化リスクが懸念され、ワクチン接種勧奨とされている基礎疾患等は、6人(6%)を除いて有しており、上位の疾患は、心疾患(高血圧を含む)55%、糖尿病26%、呼吸器疾患21%であった。がんなどの疾患やステロイド等の治療薬による免疫低下状態も21%を占めた。
- 5類感染症移行後の新型コロナウイルス感染症も、中等症Ⅱ以上となる人の大部分は、基礎疾患があり日常生活の活動制限がある高齢者で、ワクチン接種回数の少ない人の割合が多い傾向にあるため、基礎疾患のある高齢者に対する接種の重要性は変わらないと考えられた。
- 65歳未満の中等症Ⅱ以上の入院患者17人のうち、ワクチン接種回数が判明している10人中8人は接種回数が3回以下であった。また、65歳未満の基礎疾患等の上位は、呼吸器疾患7人、心疾患6人、糖尿病4人、免疫低下状態4人であった。
- 2023年夏の流行以降、2025年冬まで、4つの流行期のコロナ肺炎中等症Ⅱ以上入院患者のプロフィールに大きな変化は認めず、重症者比率の上昇も認めなかった。このため、県感染症対策専門家会議の了承のもと、この調査をいったん終了するが、県内医療機関から新型コロナウイルス感染症の重症者の増加・若年化等の情報提供があった際は直ちに再開する。